

第 43 回「南山大学英語教員セミナー」概要

開催日時 : 2019 年 7 月 29 日 (月) ~ 7 月 31 日 (水) 、 10 時 ~ 15 時

開催場所 : 南山大学 Q 棟 Q701 教室

テ ー マ : 「21 世紀の英語教育」

講 師 : 鈴木 達也 (南山大学外国語学部教授)

講 師 : Fern Sakamoto (南山大学外国語学部講師)

講 師 : Sean Toland (南山大学外国語学部講師)

講 師 : Anthony Cripps (南山大学外国語学部教授)

現在の通信速度の 100 倍の速度で大容量のデータを送信することができると言われる第 5 世代 (5G) の高速通信規格の運用が 2020 年から始まるほか、仮想現実 (VR)、拡張現実 (AR)、そして機械翻訳 (MT) や人工知能 (AI) の日進月歩の性能向上など、今日、技術革新と英語教育は切っても切れない仲になっていると言っても過言ではありません。とりわけ、機械翻訳については、今のところ、信頼性の面でまだ 100%機械に頼れる段階にはないとはいえ、日々進化する技術をもってすれば、SF ドラマに出てくるような人体内蔵型の万能翻訳機 (Universal Translator) が実用化される日もそう遠くはないのかも知れません。そのような技術が実現すれば、もはや英語を学ぶ必要性も消え失せるのでしょうか? 43 回目を迎える今年の英語教員セミナーでは、「21 世紀の英語教育」をテーマに、今ある技術をどのように英語教育に生かしたら良いのか、我々英語教員はどのようにして新しい技術に対応していけば良いのか、そして技術革新は本当に英語教育に豊かな未来をもたらしてくれるのか、といったことについて、プラクティカルな活動も交えつつ、これからの英語教育について参加者全員で深く考える 3 日間としたいと思います。

第 1 日目は、第一講義で 3 日間のセミナーの導入として、鈴木達也講師が「現在の英語教育が直面する諸問題」と題し、英語教育で用いられ得る技術の簡単な紹介とともに、英語の多様性の問題、そして「通じる英語」の視点から考える発音の問題や発音指導について受講者の皆さんと考えます。第二講義では、Fern Sakamoto 講師が「Using L1/L2 in the classroom」と題して、文部科学省が推進する英語で教える英語の授業の問題について深く掘り下げ、教室で実際にどのようにして「英語で教える英語の授業」を運営していけば良いのかについて考えます。

第 2 日目は、第一講義で Fern Sakamoto 講師と Sean Toland 講師が「Professional development in the 21st century」と題して、日々の業務に追われる教師にスポットライトを当てます。様々な技術が溢れる現代のグローバル化した世界の中で、教師は如何にプロフェッショナルとしての能力を高めていったら良いのかについて考えます。2019 年度の文部科学省科学研究費に採択された Professional Learning Network (PLN) プロジェクトについても言及する予定です。第二講義では、Sean Toland 講師が「Strategies for enhancing English language learners' 21st century skills」と題し、学習者の側にスポットライトを当てます。昨年の講義をさらに発展させて、批判

的思考、デジタル読解力、コミュニケーションスキルといった問題を英語教育にどのように取り込んでいくべきかということについて、授業の中で活用できる実用的なアクティビティを紹介しつつ検討します。

最終日の第3日目は、第一講義で Anthony Cripps 講師が「Innovations and teaching」と題し、英語教育はどのように技術革新と付き合っていけば良いのかについて考えます。第二講義では、鈴木達也講師が、3日間のセミナーを振り返り、「21世紀の英語教育」が目指すべき姿について、受講生の皆さんと考えます。

今年も3日間のセミナーを通じて、現在の我が国の英語教育が直面する多くの課題、そして英語教育の未来について、アクティブ・ラーニングによる理解を深めることができれば幸いです。多くの皆様のご参加をお待ちしております。